

マタイ・ヨハネ受難曲におけるイエスの言葉「Du sagest's.」の訳について

【はじめに】

2017年3月、盛岡バッハ・カンタータフェラインの「ヨハネ受難曲」演奏会を聴いた。私にとって初めての字幕付き演奏会体験だった。

その演奏会、第18曲の字幕で、ピラトに「お前は王なのか？」と聞かれたイエスの台詞の訳は、

「お前の言うとおりに、私は王である」

というものだった。ドイツ語の歌詞はハッキリ「Du sagst's, ich bin ein König.」と聞き取れた。

私はこの瞬間、かなり違和感をもった。

私は「マタイ」は聴き込んでいて歌詞にも馴染みがあるが、「ヨハネ」はそれと比べたらかなり馴染みが無い。なので、「ヨハネ」ではイエスの台詞にこんなのがあったのか、と思ったのである。

しかし同時に、「これは誤訳じゃないのか？」とも思った。字幕が、ではなく、ルターがギリシア語から訳す際なのである。私は田川建三氏の本を読んで勉強していたから、歴史上実在したイエスはこんなことを言う人ではない、と理解している。イエスは、ユダヤ教指導者や政治権力者と、まともに同じ土俵で論争する気などさらさらなかった。「それはお前が言っていることだろ（ルター訳ドイツ語聖書で Du sagst es.）」と、捨て台詞で応酬するのが、彼の基本姿勢だ。「ユダヤ人の王なのか」と聞かれても、それは「お前が言っていることで、俺の知ったことじゃないよ。」というはずなのだ。

ところが、バッハの「ヨハネ受難曲」を聴くと、そこでのイエスは「私は王だ」と言ってもおかしくない威厳ある宗教家として脚色されていることも確かだ。「マタイ受難曲」でのイエスとは雰囲気が違う。

その大きな理由として、ルター訳のこの台詞があるのではないか。

ルターは Du sagest's.を「お前の言うとおりにだ」の意味で訳語として使っている。特にヨハネのこの場面、ルターの訳文は、Du sagest's,と ich bin ein König.の間に接続詞がないので、この意味でないという意味が通らないのである。

バッハの受難曲におけるイエスは、「ルターがドイツ語訳した台詞」を語らせられている。しかしルターの訳は、現代の聖書学からすると問題が多い。「ギリシア語で書かれた本来の福音書」では、どう書かれているのか、が問題なのだ。

この点について、ギリシア語が読めない私は、自力では検証不能である。しかしながら田川建三氏の「新約聖書 訳と註」全8冊がある。

以下で私がやったことは、バッハの「マタイ」「ヨハネ」両受難曲にでてくる計4カ所（両福音書全体としてもこの4カ所だけ）の Du sagst es.について、手元の様々な訳を検証してみたというだけである。

なお、その作業中、Wikipedia「マルコによる福音書」のページに、「14:62 ではイエスははっきりと自分がメシアであることを宣言。」と書いてあるのを発見した。この件についても5番目の項目として検討する。

【ここで紹介する様々な聖書翻訳について】

田川建三著『書物としての新約聖書』を読んだ後、カトリックのフランシスコ会による日本語訳聖書や、様々な英語訳の聖書(RSV、NRSV、TEV、CEV)などを購入したが、今はすべて手放してしまった。現在、所有しているのは以下のもの。

- ・田川建三氏による翻訳
「新約聖書 訳と註 第一巻 マルコ福音書/マタイ福音書」「同 第五巻 ヨハネ福音書」
日本が世界に誇る最高の聖書学者による正しい（ギリシア語原典に忠実な）翻訳。
- ・日本聖書協会「口語訳」（新約 1954 年、旧訳 1955 年）
古今最高の英語訳 RSV に依存しているが、神とイエスに対してのみ敬語を使用する（パリサイ派がイエスに敬語を使うはずが無いのに）など、日本語の文体としては問題がある。（田川氏の解説）
- ・日本聖書協会「新共同訳」（1987 年）
聖書協会による一番新しい翻訳。その前の「共同訳」（1978 年）が、アメリカ聖書協会の TEV (Today's English Version、自由に現代的に意識した) に影響された酷いものだったのを反省し修正したもの。とはいえまだ TEV 的な所はたくさんある。表題も「～人への手紙」が「～の信徒への手紙」になったりしていてダメ（田川氏）。

- ・新改訳聖書刊行会「新改訳」

日本国際ギデオン協会が配っていたもの。日本聖書刊行会による 1988 年発行と記載されている。「新改訳」の初版は 1973 年である。「聖書を『誤りなき神のみことば』と告白する福音主義の立場に立つ委員会訳である」、と称しているが、学術的聖書翻訳に関して言うならば“福音主義”とはほとんど原理主義（ファンダメンタリズム）と同義である。

- ・英語版 New King James Version (NKJV、1983 年)

日本国際ギデオン協会が配布していた聖書に載っている英語版。同協会の国際組織「国際ギデオン協会」が長年配布していたものである。

1611 年に AV (Authorized Version) として完成した「欽定訳」の別名が「King James Version」であり、本格的英語訳聖書の最初のものである。これが RV (Revised Version、新約 1880 年)、ASV (American Standard Version、1901 年) をへて、RSV となっていくわけである。

しかしこの NKJV は、昔の欽定訳を現代英語に直したものでしかない。新約の初版は 1979 年。

以上の手持ちの書籍版の他に、ネット上で読める英語訳・ドイツ語訳も参照した。まずは英語版。

- ・RSV (Revised Standard Version、改訂標準英語訳 1952 年)

現在、最高の英語訳聖書である。これを改訂した NRSV (1989 年) は、いろいろ問題がある。

RSV Bible -- Browse というサイトで旧約・新約とも読める。

<https://quod.lib.umich.edu/r/rsv/browse.html>

- ・欽定訳 (1611, KJV, King James Version, Authorized Version)

古い権威ある英語訳だが、古語なので読みにくい。ヘンデル「メサイア」の歌詞である。

King James Version (KJV、<https://www.biblestudytools.com/kjv/>) というサイトで読める。

このサイトだと、RSV やルター訳 1912 年版、その他フランス語版などもメニューで選べるようだ。

次にドイツ語版。

- ・ルター聖書 1710 年版

<https://jesus-is-lord.com/germtoc.htm>

このサイトの「Text der unrevidierten Lutherbibel 1545 (未校訂のルター聖書テキスト)」という表題は“偽りあり”である。Wikipedia の「ルター聖書」の項から同サイトへのリンク先説明には、

「ルターの手による最終的なテキストと同じではなく、1710 年のカンシュタイン聖書会議によるものである」と書いてある。旧バツハ全集の歌詞はこれと同じのようだ。

しかし、全体的には「Luther 1912」との差違はほとんどない。現在に至るまで「ルター訳」は何度も改訂されてきたが、基本的な構造はそのままである。

以下のドイツ語訳は、いずれも「Bibel-Online.net」というサイトで読むことができる。

<http://www.bibel-online.net/>

- ・ルター訳 1545 年版 (Luther 1545 Letzte Hand)

ルターの最終稿。ドイツ語の“古文”である。このサイトのページ自体にバグもあり読みづらい。

- ・ルター訳 1912 年版 (Luther 1912)

これと 1545 年版の間が、上記 1710 年版である。新バツハ全集の歌詞はこちらのようだ。

- ・Neue Evangelische (新福音主義)

「福音主義」の本来の意味は宗教改革の立場をとる、ということであった。

しかし現代においては、聖書の言葉＝福音を重視するあまり、原理主義（ファンダメンタリズム）と化した人たちを指す。このドイツ語訳も、期待に違わぬ原理主義的翻訳となっている。

- ・Interlinearübersetzung (逐語訳)

Interlinear は「行間の」という意味なので、「翻訳」(Übersetzung) と合わせて、“行間を読んだ大胆な意訳” のことなのかな、と思ったら大間違い。その正反対で、行間に単語 1 つ 1 つの意味を付けていく「逐語訳」という意味である。ギリシア語の原文に忠実に訳したものと期待して良さそうだ。

【Du sagest's.の検証】

検討項目は以下の5点

1. マタイ第26章63-64 大祭司の尋問に対して（「マタイ」第36曲a）
2. マタイ第27章11 総督ピラトの最初の質問（「マタイ」第43曲）
3. マタイ第26章25 最後の晩餐でユダに対して（「マタイ」第11曲）
4. ヨハネ第18章37 ピラトの「王なのか」という2回目の質問に対して（「ヨハネ」第18曲）
5. マルコ第14章62 大祭司の尋問に対して（1. に対応する場面）

1. マタイ26章63-64 大祭司の尋問、バツハ「マタイ受難曲」第36曲a

「マタイ福音書」では第16章で、イエスは「あなたは生ける神、キリストです」と答えたペテロを大変褒めている。しかしもとの話は「マルコ福音書」第8章の同じ場面、「あなたはキリストです」と答えたペテロをイエスは戒めた（叱った、と訳すべきギリシア語が使われている）である。そしてこれはイエスの真実の台詞である。「あなたはキリスト」と言われたイエスが、それを否定したという内容を、キリスト教会がわざわざ捏造するはずがないからである。

「マタイによる福音書」はイエスの事跡を改竄した書物であり、そこに登場するイエスならば、「お前は神の子・キリストなのか」と問われたら、「その通りだ」と答えないと首尾一貫性がない。

しかしながら、RSV 英訳など学術的な訳だけでなく古いルター訳ドイツ語ですら「それはお前が言ってることだ」としか訳せない言葉を使っている。やはりもともとのギリシア語の福音書のギリシア語もそのような台詞なのだ。改竄の手を入れておきながらも、真実のイエス像の痕跡はしっかり残ってしまっている。（ちゃんと読めば様々な古代史料も皆そういうところがある。それを読み解くのが歴史家というものだ。）

ルター訳1710年版 = バツハの受難曲の歌詞

Und der Hohepriester antwortete und sprach zu ihm:

Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott, das du uns sagest, ob du seiest Christus, der Sohn Gottes.

Jesus sprach zu ihm: **Du sagst es**. Doch sage ich euch: Von nun an ~

改訂標準英語訳RSV

(大祭司) "I adjure you by the living God, tell us if you are the Christ, the Son of God."

Jesus said to him, "**You have said so**. But I tell you, ...

田川建三訳

大祭司が彼に言った。

「**生ける神に誓って、お前に言う**。我々に答えよ。お前は神の子キリストであるのかどうか。」

イエスは彼に言う。「**あなたがそう言っておいでなのだ**。むしろ私はあなた方に言う、今から後..」

新共同訳

(大祭司)「**生ける神に誓って我々に答えよ**。お前は神の子、メシアなのか。」

イエスは言われた。「**それはあなたが言ったことです**。しかし、私は言っておく。～」

しかし、古い翻訳、あるいは原理主義的な翻訳では、「お前の言うとおりにだ（＝私は神の子キリストだ）」となっている。

英NKJV

(大祭司) "I put You under oath by the living God: tell us if You are the Christ, the Son of God!"

Jesus said to him, "**It is as you said**. (お前の言う通りだ) Nevertheless, I say to you,...."

口語訳

(大祭司)「あなたは神の子キリストなのかどうか、**生ける神に誓ってわれわれに答えよ**」

イエスは彼に言われた。「**あなたの言うとおりにである**。しかし、私は言っておく...

新改訳

(大祭司)「**私は生ける神によって、あなたに命じます**。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」

イエスは彼に言われた。「**あなたの言うとおりにです**。なお、あなた方に言っておきますが、...

Neue Evangelische (福音主義 = 原理主義)

Darauf fragte ihn der Hohe Priester noch einmal: "Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott:

Bist du der Messias, der Sohn Gottes, oder nicht?"

"Ich bin es!" (私はまさにそれだ!), erwiderte Jesus. "Doch ich sage euch:"

この部分、赤字の「Du sagest's.」問題とは別の問題もある。それは青字にした大祭司による詰問の日本語訳である。

ドイツ語訳・英語訳を読む限り「生ける神に誓って言う」の主語は大祭司自身のはずである。しかし日本聖書協会による「口語訳」「新共同訳」の2つはそうになっておらず、大祭司がイエスに対して「生ける神に誓って答えよ」と命令する形になっている。何となく“通りが良い”のはわかるが、文法的にはおかしい。

田川建三氏の訳が大祭司を主語にしているのは当然として、もう1つそう訳しているのが何と「新改訳」だというのは意外である。

また、古い英語欽定訳 KJV とその最近の改訂版 NKJV の違いも面白い。64 節冒頭だけ比較する。

KJV・・・Jesus saith unto him, **Thou hast said:** nevertheless I say unto you, . . .

NKJV・・・Jesus said to him, "**It is as you said.** Nevertheless, I say to you,...."

KJV は、Thou hast said(=You have said)だけで、お前の言うとおりで、の意味にしているようだ。これはルター訳の影響だろう。礒山雅氏の名著「マタイ受難曲」に、現代でもドイツ語の口語では Du sagest's.を「その通りだ」の意味で用いるという。現代英語でも「You said it」が同じ意味だ。おそらく、そうなった原因は、ルター訳や英欽定訳におけるイエスのこの台詞にあるのではないだろうか？

これに対し、新しい NKJV は、ギリシア語原文にない It is as を付け足したりして、より原理主義的意識になっている。

2. マタイ第27章11 総督ピラトの最初の質問 バツハ「マタイ受難曲」第43曲

これも1. と同じような場面であるから、訳の傾向も全く同じである。

ルター訳(1710) バツハの受難曲

Und der Landpfleger fragte ihn und sprach: Bist du der Juden König?

(総督がイエスに尋ねて言った「お前がユダヤ人の王なのか?」)

Jesus aber sprach zu ihm: **Du sagst es.**

RSV

. . . and the governor asked him, "Are you the King of the Jews?"

Jesus said, "**You have said so.**"

田川建三訳

そして代官が彼に尋ねて言った「汝はユダヤ人の王であるのか」。

イエスは言った、「**あなたがそう言っておいでなのだ**」

新共同訳

総督がイエスに「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると

イエスは「**それはあなたが言っていることです。**」と言われた。

これに対し、古い訳や、原理主義的な訳では「あなたの言う通りだ (=私はユダヤの王だ)」となる。

NKJV

And the governor asked Him, saying, "Are You the King of Jews?"

Jesus said to him, "**It is as you say.**"

口語訳

すると総督はイエスに尋ねて言った「あなたがユダヤ人の王であるか」。

イエスは「**そのとおりである**」と言われた。

新改訳

すると総督はイエスに「あなたはユダヤ人の王ですか」と尋ねた。

イエスは彼に「**そのとおりです**」と言われた。

Neue Evangelische

Als Jesus dem Statthalter vorgeführt wurde, fragte ihn dieser: "Bist du der König der Juden?"

- "Ja, es ist so, wie du sagst", erwiderte Jesus.

3. マタイ 第26章25 最後の晚餐 バツハ「マタイ受難曲」第11曲

この場面は上2つとは全く場面が異なる。

最後の晚餐の席上、イエスは「この中に裏切り者がいる」と宣言する。弟子達がロ々に「主よ、私ですか？」と言う。最後にユダが「私ですか？」と言うと、イエスが「Du sagest's.」と答えるのである。

ここはイエスも、裏切り者がユダであると分かっているのだから「その通りだ」と答えて全くおかしくない。にもかかわらず、ルター訳では「お前がそう言っている」なのである。

ルター訳(1710) バツハの受難曲

Da antwortete Judas, der ihn verriet, und sprach: Bin ich's, Rabbi?
Er sprach zu ihm: Du sagst es.

他の訳はどうなっているか。ここではまず、古かったり、原理主義的だったりするものを先に見る。

Neue Evangelische

Da sagte auch Judas, der Verräter, zu ihm: "Ich bin es doch nicht etwa, Rabbi?"
- "**Doch**", antwortete Jesus, "**du bist es.**"(いや、あなただ。)

口語訳

イエスを裏切ったユダが答えて言った。「先生、まさか私ではないでしょう。」
イエスは言われた。「**いや、あなただ。**」

新改訳

するとイエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。
「先生、まさか私のことではないでしょう。」
イエスは彼に「**いや、そうだ。**」と言われた。

場面が場面だけに、躊躇無く勝手な意識=誤訳を行っている。しかし、英語の欽定訳は次の通り。

KLV

Then Judas, which betrayed him, answered and said, Master, is it I?
He said unto him, **Thou hast said.**

NKLV

Then Judas, who was betraying Him, answered and said, "Rabbi, is it I?"
He said to him, "**You have said it.**"

KJV・NKJV とも、RSV とほとんど変わらない。

RSV

Judas, who betrayed him, said, "Is it I, Master?"
He said to him, "**You have said so.**"

なお、ドイツ語版が現在形なのに対し、英語版および次の新共同訳は現在完了形になっている。

新共同訳

イエスを裏切ろうとしていたユダが口をはさんで「先生、まさか私のことでは」と言うと、
イエスは言われた。「**それはあなたの言ったことだ。**」

ところで、日本が誇る世界最高の聖書学者 田川建三はどう訳したか。

田川建三訳

彼を引き渡そうとしていたユダが答えて言った、「ラビ、まさか私ではないでしょうね。」
彼に言う、「**おまえがそう言うのか。**」

何と、平叙文を慨嘆の疑問文として訳している。比類無い名訳だ。(ちなみに時制は「現在形」である。)

ところで、バツハはこの田川訳のようなニュアンスを感じ取っていたのではないだろうか。

彼はここの「Du sagest's.」にだけは、他の場面とは違って、Du から sa-gest's に向かって「レーソーソー」と4度の上昇音型で作曲している。

この通りに、イエスのユダに対する台詞を歌うならば、「(裏切り者の張本人である) お前が、ここでそう言っちゃうわけ? (あきれて物も言えないよ)」という感じであろうか。

ちなみに、その前の2カ所ではいずれも Du sa-から gest's に向かって、5度、4度の下降音型である。

4. ヨハネ第18章37 ピラトの2回目の「王なのか」という質問に対して

本稿の懸案事項である。「Du sagest's, ich bin ein König.」は、ギリシア語からの正しいドイツ語訳なのか。
(ちなみに、ここは「マタイ 27:11」=検討項目 2. に対応する場面である。)

ルター訳(1710) バッハの受難曲

Da sprach Pilatus zu ihm: So bist du dennoch ein König?

Jesus antwortete: **Du sagst es, ich bin ein König.** Ich bin dazu geboren und in die Welt kommen, daß ich die Wahrheit zeugen soll. Wer aus der Wahrheit ist, der höret meine Stimme.

「**あなたが言う（その通り）私は王である。** 私は真理を示すために、生まれ、この世に来たのだ。真理からの者は私の声を聞く。」

前述の通り、イエスの返答は間に**接続詞が無い**ので、上のように訳すしかない。

1545年のルター最終稿も「Jhesus antwortet / Du sagsts / Jch bin ein Konig.」となっている。

古い翻訳や原理主義的翻訳では、ここぞとばかり...

Neue Evangelische

"Also bist du doch ein König", sagte Pilatus.

"**Du hast Recht**", erwiderte Jesus, "**ich bin ein König**, ich bin dazu geboren.

Und ich bin in die Welt gekommen, um für die Wahrheit einzustehen. ~"

「お前は正しい」とイエスは答えた。「私は王であり、私はそのために生まれてきたのだ。私は、真理を保証するために、この世に来た。 ~」

いったいどこから **Recht** なんて言葉を持ってきたのか？ 続く文も、切り方を変えて、「王となるために生まれてきた」としている。

NKJV

Pilate therefore said to Him, "Are You a King then?"

Jesus answered, "**You say rightly that I am a king.** ~"

(あなたは、私が王である、と正しいことを言っている。)

that 節で括ったのはいいが、say rightly ときたか。

口語訳

そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだな」。

イエスは答えられた、「**あなたの言うとおりに、私は王である。** ~」

新改訳

そこでピラトはイエスに言った。「それではあなたは王なのですか」

イエスは答えられた。「**私が王であることは、あなたの言うとおりにです。** ~」

しかし学術的な訳は、やはり以下のようにthat節として訳している。

RSV

Pilate said to him, "So you are a king?" Jesus answered, "**You say that I am a king.** ~"

(おまえが、私が王である、と言っているのだ。)

ここで驚きなのが、古い欽定訳 KJV だ。

KJV

Jesus answered, **Thou sayest that I am a king.**

これでは全く RSV と変わらない、正しい翻訳ではないか。

ここでも、NKJV のほうが、より原理主義的になっていることがわかる。

新共同訳

そこでピラトが「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。

「**私が王だとは、あなたが言っていることです。** 私は真理について証しをするために生まれ、そのために世に来た。真理に属する人は皆、私の声を聞く。」

田川建三訳

それでピラトが言った、「では汝は王ではないのか」

イエスが答えた、「**私が王だというのは、あなたが言っておいでのことだ。** ~」

Interlinearübersetzung (逐語訳)

Da sagte zu ihm Pilatus: Also doch ein König bist du?

Antwortete Jesus: **Du sagst, daß ein König ich bin.** ~

やはりここは **daß** 節で括るべきなのだ。「私が王だ、とはお前が言ってることだ。」

というわけで、この場面も、マタイの尋問 2 カ所と同様に「私が王だとはお前が言ってることだろ」と捨て台詞的に訳すのが正しい。

5. マルコ第14章-62 大祭司から「キリストなのか」と聞かれたイエスが「私がそうだ」と答えている件

「マルコ」第 14 章 61-62 節の翻訳は次のようになっている。

ルター訳

Da fragte ihn der Hohepriester abermal und sprach zu ihm: Bist du Christus, der Sohn des Hochgelobten? Jesus aber sprach: **Ich bin's;** und ihr werdet sehen des Menschen Sohn sitzen zur rechten Hand der Kraft und kommen mit des Himmels Wolken.

Interlinearübersetzung (逐語訳)

Wieder der Hohepriester fragte ihn und sagt zu ihm:

Du bist der Gesalbte, der Sohn des Hochgelobten? Aber Jesus sagte: **Ich bin** und ~

RSV

Again the high priest asked him, "Are you the Christ, the Son of the Blessed?"

And Jesus said, "**I am;** and you will see the Son of man seated at the right hand of Power, and coming with the clouds of heaven."

新共同訳

「お前はほむべき方の子、メシアなのか？」と（大祭司は）言った。
イエスは言われた。「**そうです。**あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、天の雲に囲まれて来るのを見る。」

現在、ギリシア語聖書の原典とされているのは「ネストレ」と呼ばれるものである。聖書学の進歩とともに改訂が繰り返され、現在は 1979 年の第 26 版となっている。

その「ネストレ」の原文が上記のようになっており、全世界でそのように訳されているのである。

だが田川建三氏は、このイエスの台詞を、「**私がそうだということは、お前が言っていることなのだ**」と訳されている。(『新約聖書 訳と註 1 マルコ福音書/マタイ福音書』)

田川氏はここで、「ネストレ」を“底本”として扱ってはいない。「ネストレ」原文を確定した聖書学者たちが行ったのと同じ史料批判(正文批判)を、自らも行い、その成果としてこのように訳したのである。

聖書学という学問には“底本”という概念は無い。「ネストレ」も金科玉条ではないのである。

以下、田川建三著『書物としての新約聖書』からのまとめである。

聖書の原資料たる古い写本には、いくつかの系統がある。

有力な考え方として、「**アレクサンドリア型** ヴァチカン写本(B)・シナイ写本(γ)等」と「**西方型** ベザ写本(D)等」の一致が見られれば、それが正文だろうということになっている。

しかし、「マルコ福音書」のみに見られる「**カイザリア型** コリデティ写本(Θ)等」というのがあって、同福音書においては、「アレクサンドリア型・西方型」と「カイザリア型」が対立した場合、「カイザリア型」を優先すべき場合も多いという。

ではこの部分において、古写本はどうなっているのか。田川氏の『訳と註 1』の解説によれば、

- ・「カイザリア型」……「私がそうだということは、お前が言っていることなのだ」(that 節従属文の形)
- ・「アレクサンドリア型・西方型」……「私はそうだ」(「お前が言っていることだ」を削除した形)

ギリシア語「ネストレ」は後者を採用しているのだが、しかし、それが正しいのか?!。

ここで、「マルコ 14:61-62」に対応する並行記事は「マタイ 26:63-64」、つまり今まで検討してきた項目の1.だ。その「マタイ」では「お前がそう言っているのだ」となっている。

マタイ著者はイエスのことを「予言されていた救世主」であると考えている人物だ。その彼が「マルコ」を脇に置いて引き写しながら、それに自分の思想を盛り込んで「マタイ」を書いたのだ。

その彼が、「マルコ」にイエスの台詞として「私はそうだ（メシアだ）」（アレクサンドリア型・西方型）と書いてあるのを見たら、“我が意を得たり”と思ってそのまま書き写すだろう。それを“わざわざ削除して”、さらに、自分の考えにそぐわない「お前がそう言っているのだ」に書き換えるなどということは絶対にあり得ない。

マタイ著者が見ていた「マルコ」は「カイザリア型」だった。すなわち「私がそうだということは、お前が言っていることなのだ」と書かれていたはずだ。これを見てマタイ著者が「私がそうだということは」を削除したのは、単に重複を避けるためだったと考えれば説明がつく。

よって田川氏の措置が正しい。この部分における「ネストレ」の措置は歴史学の原則に反している。ある集団が作成した記録に

「彼らにとって不利なことが書かれている場合は、おおむね信用できる」

「彼らにとって有利なことが書かれている場合は、真実かどうかよく検討しなくてはならない」のである。

さて、最後に唯一ここまで話題に上らなかった「ルカによる福音書」についても見てみることにする。同福音書で、イエスが「それはあなた(たち)が言っている」と言うのは次の2カ所である。訳の特徴が、今まで検討してきた通りであることがわかる。(赤が学術的な訳、青が古い訳・原理主義的訳である。)

「ルカ福音書」第23章3節……並行記事「マタイ27:11」(=検討項目2.)

新共同訳 そこでピラトがイエスに「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは「それはあなたが言っていることです」とお答えになった。
⇨口語訳「その通りです。」

ルター-1710 Pilatus aber fragte ihn und sprach: Bist du der Juden König?
Er antwortete ihm und sprach: **Du sagest es.**
⇨Neue Evangelische "Ja, es ist so, wie du sagst"

RSV "Are you the King of the Jews?" And he answered him, "**You have said so.**"
⇨NKJV "It is as you say."

「ルカ福音書」第22章67-70……並行記事「マタイ26:63-64」(=検討項目1.)

新共同訳 (最高法院)「お前がメシアなら、そうだと言うがよい」と言った。イエスは言われた。「私が言っても、あなたたちは決して信じないだろう。私が尋ねても決して答えないだろう。しかし今から後、人の子は全能の神の右に座る」そこで皆の者が、「では、お前は神の子か」と言うと、イエスは言われた。「**私がそうだということは、あなたたちが言っている。**」
⇨口語訳「あなたがたの言う通りです。」

ルター-1710 Bist du denn Gottes Sohn? Er sprach Zu ihnen: **Ihr saget es, denn ich bin's.**
→ヨハネ 18:37 と同じで、前半を「その通り」と訳さないと意味が通らない。

Neue Evangelische "Ihr sagt es", erwiderte er, "**ich bin es.**"

RSV "Are you the Son of God, then?" And he said to them, "**You say that I am.**"
⇨NKJV "You rightly say that I am."

以上。これで、イエスは全ての福音書の尋問の場面で、「お前は王なのか」「キリストなのか」と聞かれても、「それはお前が言ってるんだろ」と捨て台詞で応答した、ということが確認できた。